

再処理工場の悲惨な事故

ウラル核惨事から51年

宮古 9月28日(日) 宮古市立図書館 14:30~16:30 ☎0193-62-2414

盛岡 9月29日(月) 岩手県公会堂 18:30~20:30 ☎019-623-4681

◀関連パネル展示 宮古10:00~ 盛岡17:30~▶

入場無料 ただ、この会の財源はありません。資料代含め500円ほどカンパをお願いします。

講演者 市川富士夫さん 東海村の原子力研究所で再処理の基礎研究に携わった化学者。ロシア語の論文を読みこなし、ウラル核惨事の原因に詳しい。トムスクでの爆発事故後すぐ、日本テレビの取材に同行した。その時の生々しい話も聞けます。又、原子力研究所で起きた爆発事故も経験しています。動燃(原燃の前身)が原子力研究所から分かれたいきさつ、そこから始まった秘密主義も体験しています。

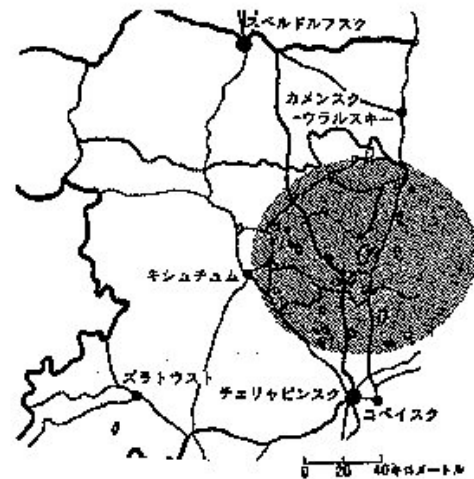
再処理工場の過酷事故はロシア(ソ連)で3回、アメリカで1回。日本でも東海村で低レベルの爆発事故が2回、フランスで電源喪失による爆発寸前の事故が起きています。過去の悲惨な事故の教訓を生かすために“知ること”が必要です。

六カ所村再処理工場でガラス固化作業が失敗したため、高レベル放射性廃液が溜まったままという危険な状態が続いています。どんな危険性なのか、具体的に知る必要があります。そのためにぜひ多くの方に来ていただきたいのです。

ウラル核惨事

1957年9月29日、旧ソ連で起きた再処理工場の爆発事故。爆発規模TNT火薬70t相当。1000m上空まで舞い上がった高レベル放射性廃棄物は30km×300kmの地域を高濃度に汚染。1万人が避難。人口変動調査から死者数百人と推定する研究者もいる。当時ソ連は一切公表せず、核爆発? 原発事故? 高温の高レベル放射性廃棄物が水と接触し水蒸気爆発? 等、世界中に憶測が乱れ飛んだ。

ソ連崩壊後、科学者による調査が行われ、論文が公表された。再処理工場から出された高レベル放射性廃液が出す熱への冷却に失敗し、水が蒸発し、廃液中の硝酸塩と有機物による火薬的爆発が原因というのが真相だった。



汚染中心地帯(メドベージェフ、1979)

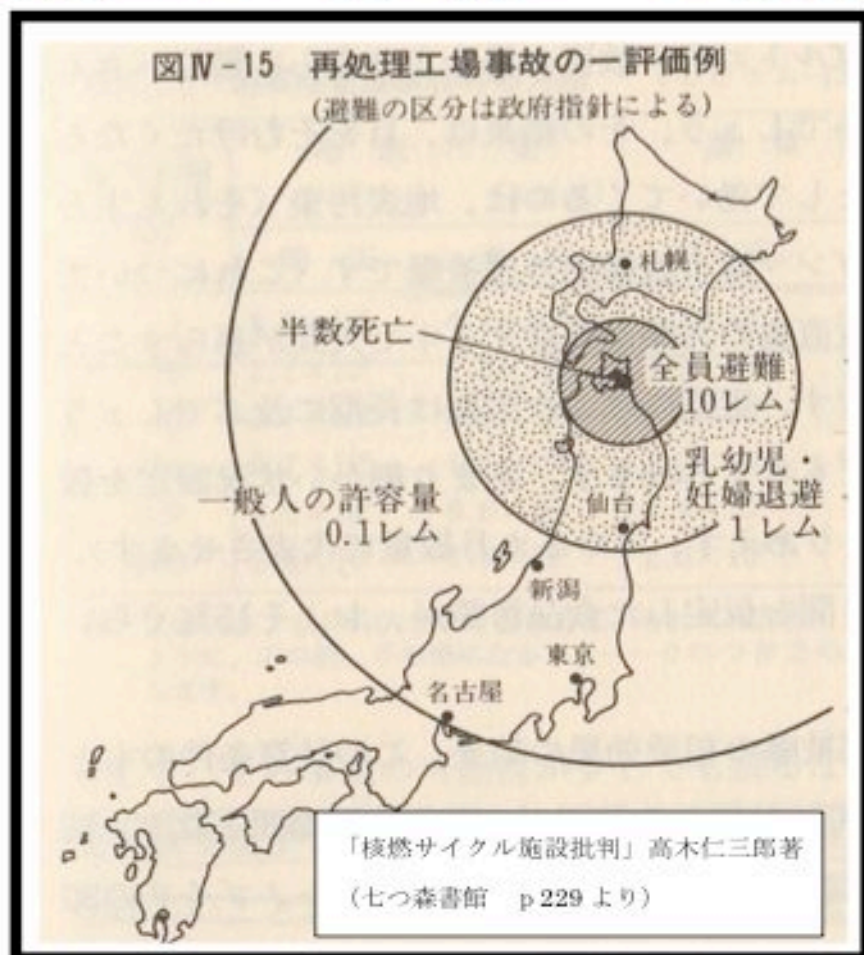
主催 豊かな三陸の海を守る会、三陸の海を放射能から守る岩手の会

後援 朝日新聞盛岡総局、毎日新聞盛岡支局、岩手日報社、岩手東海新聞社、岩手日日新聞社、宮古民友社、

テレビ岩手、岩手朝日テレビ、IBC岩手放送、めんこいテレビ、

連絡先 宮古 0193-62-1164 菅野 盛岡 019-661-1002 永田

再処理工場で高レベル廃液が漏れると



「高レベル廃液 100 m³を含むタンクが破壊され、その内蔵放射能の 1%が外部に放出されたとき」の事故評価例です。

2008年8月末現在、六ヶ所村再処理工場には約 210 m³の高レベル放射性廃液がガラス固化されずに溜まっています。(最大で 680 m³貯蔵できます) 高レベル廃液は絶えず冷却しなければ、約 15 時間で沸騰すると言われています。地震で冷却機能が喪失した場合、どうなるのでしょうか。現在日本原燃に質問を提出中。再処理をしている多くの国は地震がありません。日本は世界一の地震国なのです。